



厚労省

「人材開発支援助成金」
対象範囲拡大！大企業も
対象になりました！

第24回 稼げるSE養成講座

～工場への管理技術指導で顧客に大きな利益をもたらすSE育成～

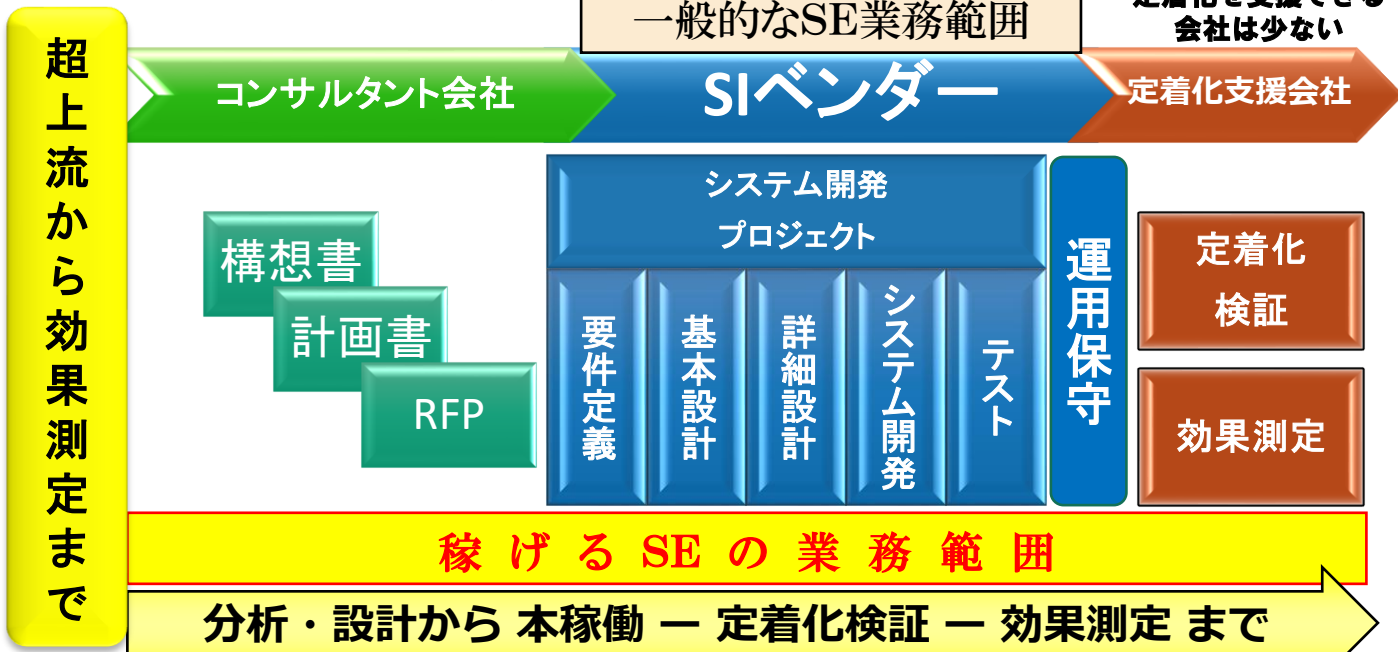
ICT利活用で「在庫20%・人件費8%・材料費1%」削減。

—顧客の利益率5割UPを実現する方策が学べます！—

受講対象者 (実務経験3年以上のSE、及び幹部社員。)

- ①「御用聞きSE」では、工数ばかり掛かって、顧客に利益をもたらさないと感じている方。
- ②ERP更新期だが、新たなERPを選択しても、顧客利益に繋がらないと感じている方。
- ③生産管理の改善時に、顧客要望に対して、妥当性の判断、対案が出せるようになりたい方。
- ④顧客要望を満足させた予算超過プロジェクトが続くが、顧客の利益になっていないと感じる方。
- ⑤大半の業務をICT化したが生産過剰、欠品発生が改善されず品質・生産性向上も、無いと感じる方。

本プログラムが目指すSE業務とは



日時・開催方法

- 日時 : 2020年11月9日 - 2021年2月22日 毎週月曜日 全12回 14:00~17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)
- 方法 : TV会議方式オンラインセミナー (定員7社 限定)
- 受講料 : 10万円(税別) / 人 (「厚生労働省人材開発支援助成金」の対象講座。
(参考HP: 厚生労働省「人材開発支援助成金」不明点はお問合せください)
- 申込締切日 : 2020年9月25日(金曜日) 助成金申請のため締切日遵守ください(*申請手続きは、お手伝いします)

本講座の体系—「稼げるSE養成講座」は以下の3つのコースがあります。

1. 原理原則編 (今回ご案内)
2. 分析設計編
3. 定着化/効果測定編

1. 生産管理の各業務毎の正しい目的・方法手順を体系的に取得できる唯一の講座
2. 現状分析から基本設計・RFP作成を行い、顧客の基準標準化を指導できる技術を取得する唯一の講座
3. 定着化・効果測定技術を取得する、唯一の講座です。

[本講座の特徴] ~標準化の実務演習が大人気~

「実際原価」は
ウソの原価です！

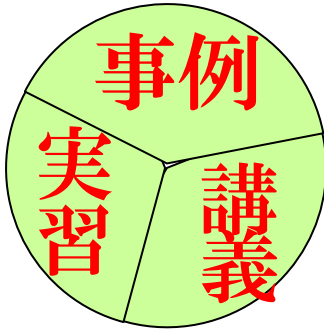


**リアルタイムで質問も出来る
“双方向型”の「塾」です。
移動時間も不要！**

※口頭でのご質問、その場からのチャットも可能
(Googleハンガアウトを使用)

1. 必要機材の無償貸出 2. 事前接続テスト の実施

塾 の 特 徴



講義と事例	演習と実習	熱意
①講師は「先生」ではなく何十年ものBPR構築に携わった熟達SE ②千社近い事例で原理原則と実務の技術伝承	①毎回ICTで解決できない課題を演習 ②基準標準化の実習	毎回の熱意ある受講者にお応えするため、 ①1年間の実務課題に対するご相談の無償 ②再受講の無償化
①受講前に「レベル測定」を実施し、受講者のレベル応じた内容にカスタマイズを行います。 ②受講者の基礎知識が不足している場合に備え、毎回事前に60分の定期補講を実施しています。 ③豊富な事例で即戦力を目指す講座です。	①ERP導入の失敗の大半は、基準・標準化の未整備です。 ②管理技術の原理原則を使用すると容易に設定ができます。 ③最も難しいと言われる「標準時間」の設定を実習します。別時間を要するため、希望者のみ(無償)	①受講期間中、不明点の「補講」は、無制限 ②修了証受領者は、一部または全部の講座を無償で再受講できます ③修了証書受領者は、「1か年」に限り、実務上の課題を無償でご相談をお受けいたします。

「受講者の声」

大手ITベンダ(大阪)取締役部長

2年目の新人と共に、『顧客に利益をもたらす生産管理の考え方』を学ぶため参加させて頂きました。

社員はシステム設計開発に従事していますが、顧客視点で業務の本質を改革する機会は少なく、非常に良い勉強になりました。

弊社は、関西地区に7か所の事業所を抱えますが、それぞれ管理技術を習得することが必須となっております。今後、弊社メンバーに本講座を受講させ、SE技術者としての真の実力アップを図りたいと思います。

中堅ITベンダ(東京) SE課長

先生の皆さんは「御用聞きSE」との指摘は当初は反感を持ちましたが、20年間の経験を顧みますと、ご指摘通りで反省しました。

確かに顧客様のご要望には間違いが多くあり管理技術でのご提案に確信が持てました。

大手ITベンダ(名古屋)SE課長

月曜日に受講し火曜日に「課題の提出」は、きつく、最初は脱落しそうになりました。

予習の重要さと受講時の姿勢のご指導を受け「正しい方法手順」で受講する事により

当日中の「課題提出」が容易に出来ました。

「間違ったことを懸命にやる」事の問題を実感出来、管理技術の正しい方法手順を顧客にご提案する事の使命を認識出来ました



ABC協会の推薦理由

我が国のモノづくり企業の生産性向上は喫緊の課題です。当講座は「研修内容が非常に充実しており、これを受講することが各ITベンダ及び製造業の皆様に大きな効果をもたらすと考えているので、これを推薦します。そのため副会長の細川も一部講師役を務めます。

稼げるSE養成講座

～システム作りで顧客に利益をもたらす

教材について

1. 業務知識編：事前のレベル測定で、生産管理の知識が低いと判断された受講者用のTEXT（本講義1時間前に補講があります）
2. 管理技術原理原則編：管理技術を体系化し、検証された技術のみ網羅された管理技術唯一のTEXT。
3. 学習ライブラリ：有償版ですが、受講期間中は使用できます。座学では理解しづらい項目について、受講者が実際の数値を入力し結果を検証できるようになっています。
4. 毎回の補助教材：受講者のレベルに応じて、また受講者からの要望で、補助教材を提供しています。
5. 「実習」参加者は、必要に応じて「作業分析ソフト」等の、実習に必要な機材・ソフトの太陽があります。

事例

実習

講義

A. BPRの成功は、SEの基準・標準化の顧客への正しい指導により実現される！

実習を通してBPRに必須の基準化・標準化を習得できます。

- ①製造現場に必須な標準時間の設定方法を「実習」で習得します。
- ②同上には「作業標準」が必須ですが、これを「作業分析ソフト」を使用して習得します。
- ③在庫管理には、ロケーション管理が前提になります。「実習」でこれを習得します。
- ④原価管理で習得しづらい「チャージ計算」を「実習」で取得します。
- ⑤多品種生産時のBOM構築を「仕様展開技法」で解決する方策を「実習」で取得します。
- ⑥購買・外注・工程の各種リードタイムの設定方法を「実習」で取得します。
- ⑦安全在庫・発注点在庫の設定方法を「実習」で取得します。

各サブシステム毎の「仕組」について、原理原則を取得し顧客への指導ができます。

- ①生産計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ②購買計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ③製造計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ④注文書・製造指図書発行、自動化を事例を通じて取得します。
- ⑤在庫低減・棚卸に合理化を事例を通じて取得します。
- ⑥工程管理で生産性を向上させる技を事例を通じて取得します。
- ⑦手配変更・納期管理の革新を事例を通じて取得します。
- ⑧品質管理の日程化、合理化を事例を通じて取得します。
- ⑨BOMの100%精度と多品種のBOM構築の技を事例を通じて学ぶ
- ⑩原価管理の革新（原価低減）を事例を通じて取得します。

「熱意」があれば、「塾」は、どこまでもサポートします。

- ①受講期間中、不明点は「補講」で何度でも学習できます。
- ②修了証書受領者は、「再受講制度」により、無償で何度でも再受講できます。
- ③講師は、BPR構築の熟達者で、「先輩が後輩を育てる」事が塾の目的です。「話は下手」でも、受講者の「分からない事」には、納得頂けるまでサポートをします。
- ④現実の顧客サポートの課題を「個別相談」で解決できる体制があります。—講師5名で700社以上のBPR構築実績があります。そのノウハウを利用ください。
- ⑤受講後1年間は、BPR構築についての「ご相談」は、無償でサポートいたします。

B. 大先輩の細川泰秀先生からのSEの在り方の講義が、コースの最初と最後に登壇いただきます

講師紹介にありますが、細川先生は日本のICT業界を指導されてきた大きな功績があります。また、我が国が新たに進むべき道を示唆するご意見番でもあります。

C. 厚労省助成金対象講座です。

96%の受講企業が、助成金を申請受領されています。（詳細は別紙）

対象範囲拡大！
大企業も
対象になりました！



お申込みはこちら

<https://kan-lab.sakura.ne.jp/postmail/askjyuku.html>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。

申込締切日：9月25日(金) 受講申込者

貴社名(必須)	ふりがな		
ご住所(必須)			
TEL(必須)		FAX	
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			

【お客様の個人情報の利用目的】

お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。
また、第三者にこれを開示することはありません。

お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

特別講師

細川康秀
社) ABC協会副会長



講師

吉川正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



現日本製鉄の作業長としてライン業務を経て情報システムの大規模開発、1988年以降、中小企業の一括請負システム開発会社、NSA(現IIT)会長、NSSOL、日本情報システム・ユーザー協会副会長、現在ABC協会の副会長に就任。

コンピュータ黎明期から今日まで、鋭い洞察力・発想で日本のICT化のリーダーとして情報化に貢献されてきました。
厳しいご指導の中に、塾生を育成する愛情溢れるお話は多くのファンを生んでいます。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百家の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDE ツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。厳しき確かな指導には定評がある。(ITTV認定 ファシリテータ)

特許庁登録
「職務分析自動化」
発明者

建設資材業界での実務経験と管理技術の取得により、成型加工、消費財、装置業等々の業務再構築に従事。ネアカの指導が好評。

特許庁登録
「KJ法自動化」
発明者

50年間、数百家に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は千社を超える実績を持つ。IT技術+管理技術で利益率5割アップの「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間百回に及ぶ。

セミナーに関するお問合わせ先

「塾」の運用企業



一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会

TEL: 03-6277-2055 e-mail: sem@abc-a.jp
<http://www.abc-a.jp/privacypolicy.html>



株式会社 管理技術ラボ

TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779
URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	講座名	教育内容
補講	11/02(月)	1. 事前準備 (重要) 受講企業内で受講企業が受講者に受講の目的を伝える	1. 今後の事業目的と教育訓練 (受講企業の方針) —受講者の「目的意識」が教育効果を飛躍的に上げます。御社の受講目的を明確に受講者にお伝えください (受講企業毎に実施ください)
	14:00 ~17:00	2. 「製造業の役割と仕組」	2. 受講者のレベルに応じたカリキュラムのカスタマイズ。(方法は事前にご相談します)
1	11/09(月)	キックオフ	1. 開講にあたって (心構、目的、受講姿勢) 2. 受講者の自己紹介
	14:00 ~17:00	特別講演 (細川先生登壇による) 管理技術による利益の獲得	3. 顧客利益に貢献するSE像 4. 管理技術による利益の獲得
2	11/16(月)	1. 管理技術の「仕組」から見た製造業	前回テーマの続き 管理技術が以下に企業に「利益」をもたらすか、それを担うSEの役割を認識頂きます。
	14:00 ~17:00	2. 実在企業のビジネスフローによる製造業の「業務知識」	受注から工場内の処理手続き・生産・出荷までのビジネスプロセスを、産能大式業務フローを見ながら製造業に実態を認識します。
3	11/30(月)	在庫管理の業務知識と管理技術及び事例	在庫管理の業務知識 1、入出庫業務 2、棚卸業務 3、ビジネスプロセス
	14:00 ~17:00		在庫管理の管理技術のポイント 1. 在庫管理の目的と位置付け 2. 倉庫の定義 (原材料、工程、倉庫別) 3. 出庫認識 4. 出庫指図・実績・出来高入力と品目移動 5. 棚卸の目的・方法・差異処理
4	12/07(月)	工程管理の業務知識と管理技術及び事例	工程管理の業務知識 1. 作業指図 2. 作業割当 (ディスパッチング) 3. 作業報告と作業指導 4. 進捗管理と再計画 5. ビジネスプロセス
	14:00 ~17:00		工程管理の管理技術のポイント 1. 工程管理の目的と位置付け 2. 製造計画の検証、指図書発行 3. 製造指図の方法 (一括指図、前工程完了時指図) 4. ディスパッチング 5. 実績把握の課題と作業指導 (PAC) 6. 作業標準/標準時間の設定の説明 (作業標準・標準時間の定義と設定方法手順)

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	講座名	教育内容
4	12/07(月)	工程管理の業務知識と管理技術及び事例	工程管理の業務知識 1. 作業指図 2. 作業割当 (ディスパッチング) 3. 作業報告と作業指導 4. 進捗管理と再計画 5. ビジネスプロセス
	14:00 ~17:00		工程管理の管理技術のポイント 1. 工程管理の目的と位置付け 2. 製造計画の検証、指図書発行 3. 製造指図の方法(一括指図、前工程完了時指図) 4. ディスパッチング 5. 実績把握の課題と作業指導 (PAC) 6. 作業標準/標準時間の設定の説明 (作業標準・標準時間の定義と設定方法手順)
5	12/14(月)	購買外注管理の業務知識と管理技術及び事例	購買外注管理の業務知識 1. 購買先・外注先とは 2. 注文書、納入指示とは、注文書と下請法 3. 受入業務と入庫業務 4. 分納、完納及び会計処理 5. ビジネスプロセス
	14:00 ~17:00		購買管理の管理技術のポイント 1. 購買管理の目的と位置付け 2. 納期管理と手配残棚卸 3. 注文書、納入指示 4. 受入、分納、仕訳、入庫処理 5. 事例
6	12/21(月)	生産計画の業務知識と管理技術及び事例	生産計画の管理技術のポイント 1. 生産計画の目的と位置付 2. 計画の絶対条件と累計リードタイム 3. 生産計画と日程計画 (大中小) 4. 立案源泉と検証方式
	14:00 ~17:00	資材計画の業務知識と管理技術及び事例	資材計画の管理技術のポイント 1. 資材計画の目的と位置付 2. 独立需要と従属需要 3. 資材計画の種類と論理 4. 資材特性と資材計画の種類 5. ビジネスプロセス
7	01/18(月)	BOM (部品表) の業務知識と管理技術及び事例	部品表管理の管理技術のポイント 1. 部品表管理の目的と位置付け 2. ストラクチャ部品表 3. 品目と構成 4. 原単位、仮想部番、制御断面、結合部品表 5. 仕様展開 6. ビジネスプロセス
	14:00 ~17:00		

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	講座名	教育内容
8	01/25(月)	受注出荷管理の業務知識と 管理技術及び事例	受注出荷の管理技術ポイント 1. 受注出荷管理の目的と位置付け 2. 受注情報の要件 3. 出荷情報の要件 4. 緊急出荷、納期回答、出荷指図 5. ビジネスプロセス
	14:00 ～17:00		
9	02/01(月)	品質管理の業務知識と 管理技術及び事例	品質管理の管理技術のポイント 1. 品質管理の目的と位置付け 2. 試験検査の意義と種類 3. 試験検査の日程化 4. 採取・試験検査、先行サンプル 5. 試験成績書・出荷承認・ロット廻り 6. ビジネスプロセス
	14:00 ～17:00		
10	02/08(月)	原価管理の業務知識と 管理技術及び事例	原価管理の管理技術のポイント 1. 原価管理の目的と位置付け（目的と財務会計） 2. 定義（定義・材料・労務・経費） 3. 標準原価計算による原価の仕組み
	14:00 ～17:00		原価管理の管理技術のポイント 4. 許容原価とは 5. 原価計算と生産管理（何が問題か？）
11	02/15(月)	学習ライブラリと「まとめ」	1. 生産管理の事例 （ICT機能とマンフロー）の理解 ICTと人の役割をイメージする。 （生産計画の立案、MRP他を演習） 2. 管理技術のまとめ
	14:00 ～17:00		
12	02/22(月)	1. 分析・設計・定着化・効果 測定技術の概要	1. ASGUIDEの現状分析技術の概要 1) 問題点の棚卸「現状分析の手法」 2) ルーティンワークの設計「基本設計の手法」 3) 例外処理と人の行動設計「詳細設計の手法」 4) ノウハウの科学化「データ構築の手法」 5) 設計通りに運用しない「定着化の手法」 6) 経常利益5割UP「効果の測定手法」 7) コンサルタントが持つべき「姿勢・心」 2. 継続的な自己啓発の考え方 3. 管理技術塾の次ステップについて
	14:00 ～17:00	2. 特別講演（細川先生登壇） 3. 管理技術塾の次STEP	